

世界に平和を・戦争の基地はいらない

横田基地ミニ情報

2009.9.15

No. 53

連絡先 042-555-1911



横田基地が拡大？ 米軍住宅が羽村に出現した！

米軍横田基地北側、国道 16 号線を挟んで米軍住宅群があるのをご存じでしょうか。9 階建ての高層住宅が 8 棟、2 階建ての低層住宅などが立ち並んでいる地域です。

この地域の中に、現在、約 2,400 m²の託児所が 7 億 6 千万円もの税金を投入して建設中ですが、基地の外でも米軍住宅が何棟も出来上がっていてびっくり。横田基地に隣接する羽村市双葉町 3 丁目の、長い間、空地になっていたところです。

上の写真は、新しい住宅の前に Y ナンバーの自動車がズラリと並んでいるところ。下の写真の手前は新しい米軍住宅ですが、奥の 2 階建住宅と、そのうしろの高層住宅はフェンスを隔てた横田基地内の米軍住宅です。まるで米軍横田基地が広がってしまったみたいです。沖縄では、基地外居住削減の方向ですが、東京はお構いなしなのでしょうか。

横田友好祭後も、F 22、横田基地に？

8 月 22 日、23 日に開催された横田友好祭の人出は 17 万 5 千人と、地元の西多摩新聞が報じています。

本土初公開と話題になった最新鋭の F 22 ステルス戦闘機（写真）ですが、24 日嘉手納に帰還する予定だったのに、機体の故障で、9 月 3 日時点でも横田基地にとどまっていたそうです。



9 月 13 日、テレビ東京で“日高レポート”という番組をやっていて、グアム基地の最新鋭の飛行機が画面に登場し、特に F 22 はすばらしい性能を持った戦闘機と紹介されていました。

現在、F 22 は 34 機あり、そのうち 12 機がはじめて本土以外のグアムに配属され、そこから沖縄・嘉手納基地に行っていると説明がされました。

日米合同委員会合意事案…情報開示が必要

7 月 29 日、日米合同委員会で、【平屋建て 600 m²の冷蔵倉庫が航空自衛隊航空総隊司令部及び関連部隊が移転してくることで影響を受けるので、既存施設を移設する】

ことが合意されました。ここは、何の移転で影響するのでしょうか。（写真：既存施設？）



航空自衛隊航空総隊司令部棟の図面も全く開示されないのに、2007 年度から 2009 年度までの 3 年間で 488 億円もの国民の税金が湯水のように使われています。（写真 2 枚は 2009.8.22 撮影）

米軍の訓練で市民から苦情、かなり古い砲弾も発見される

8 月 12 日午後 10 時過ぎ、サイレン音があり、市民から福生市に 4 件の問い合わせがあり、横田基地に問い合わせたところ、運用即応演習（No. 47 参照）にともない PAS（パブリック・アドレス・システム）を使用したとのこと。また、8 月 14 日には、武蔵村山市の横田基地内のごみ焼却場付近で、500ml のペットボトル程度の古い砲弾が発見されたそうです。

30 日投開票された衆院選で、沖縄の 4 つの小選挙区では、辺野古への新基地建設反対の民主党が 2 名、社民党と国民新党がそれぞれ 1 名当選し、自民党ははじめて議席を失いました。比例で共産党も当選しました。自公勢力にとっては「壊滅的な打撃」(31 日付沖縄タイムス)となりました。新しい歴史のスタートです。9 月 15 日号の「平和新聞」は一面トップで、上記の記事を掲載しています。お読みください。



米原子力空母は出て行け!

核兵器持ち込み密約を公表し廃棄せよ! 核廃絶!

原子力空母ニミッツ入港抗議・母港を撤去せよ!

9 月 13 日、横須賀のヴェルニー公園で、首都圏から 1000 人が参加して、原子力空母 1 年に抗議をしました。

集会の呼びかけ文より 「民主党中心の新政権が発足します。選挙期間中、民主党は核兵器の廃絶を目指す発言や日米地位協定の見直し、「密約」の調査と公表をすとの発言がありました。今後の動向を注目しています。

昨年 9 月 25 日、米原子力空母ジョージ・ワシントンが横須賀に入港し母港配備されました。今年 9 月で 1 年となります。選挙期間中、米原子力空母ニミッツが 8 月 24 日入港し 28 日に出港。原潜オハイオが 29 日に入港 2 日に出港。翌 3 日にはジョージワシントンが入港しました。米海軍は横須賀を原子力艦船の常時使用基地として狙っています。米空母の母港があるのは米本国以外では日本だけ、横須賀だけです。同空母の艦載機は、アフガニスタンやイラクで無差別攻撃を行い、罪のない人々を数多く殺りくしてきました。横須賀を日本と世界の平和と安全を脅かす出撃拠点にさせ続けることはできません。母港を一日も早くやめさせるため世論と行動を大きくしましょう。」(写真: 神奈川平和委員会提供)

民間人 116 人が、戦地 (インド洋・イラク) に 39 回、派遣されていた!

インド洋とイラクに派兵された自衛隊の装備品の修理などを行うため、民間企業の技術者が 39 回、のべ 116 人、海外に派遣されていたことが 3 日までに分かりました。日本共産党の小池晃参院議員の要求に対し、防衛省が明らかにしました (9 月 4 日付「赤旗」)。

防衛省が小池氏に提出した資料によると、テロ特措法と新テロ特措法に基づくインド洋への派兵 (2001 年 11 月～09 年 8 月現在) では、民間技術者が 25 回、のべ 77 人、イラク特措法に基づく派兵 (03 年 12 月～08 年 12 月) では、14 回、のべ 39 人が海外に派遣されています。

派遣の目的は、インド洋派兵では、米軍などへの補給活動を行っている海上自衛隊艦船の器材の修理・点検。イラク派兵では、「車両搭載対策器材本体の据え付け・調整」「検査装置の定期巡回整備」などです。クウェートを拠点に武装米兵らを空輸した航空自衛隊 C 130 輸送機のエンジン点検のためにも派遣されています。

防衛省の説明では、派遣場所は海自艦船の寄港地やクウェートとされています。

政府は、民間技術者の派遣について防衛省と企業との契約に基づいて行っているとしており、契約企業は業務命令によって事実上強制的に技術者を派遣することになります。

民間技術者に犠牲が出た場合の補償についても政府は、企業側が行うという無責任な態度です。民間人をも大変な危険にさらす、憲法違反の自衛隊海外派兵は直ちにやめるべきです。

8 月 8 日には、【緊急報告集会 拡大する民間人の戦地派遣】が、重工産業労働組合などの主催で行われ、民間人の戦地派遣に詳しいジャーナリストの吉田敏浩氏が報告を行っています。

横田基地に隣接した瑞穂町にも IHI (石川島播磨重工) がありますが、IHI (田無工場) に勤務していた渡辺鋼さんも、職場から戦地に派遣されている実態を告発し続けています。